

平成23年度第5回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成24年1月26日(木) 午後2時～4時30分
- 2 会 場 中央図書館会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：11人 傍聴者：なし
事務局： 中央図書館長、館長補佐兼庶務係長、館長補佐兼調査係長
サービス係長、資料係長、大沼図書館長
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。
- 5 議事
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館運営状況について
 - ・図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)
(これまでの報告)
 - 11月24日 子ども文庫連絡協議会講演会「わらべうた、その豊かな言葉の世界」石川道子氏 中央図書館
 - 12月 3日 大活字本展示 ～14日(水) 中央図書館
 - 12月 8日 児童文学講演会 スライド講座「ドリトル先生航海記」池田正孝氏 中央図書館
 - 12月10日 福祉講演会「障がい者の自立と生活を支える介助犬」小川西町図書館
 - 12月15日 DAISY再生機体験会・講習会 中央図書館
 - 12月21日 四小全校集会ブックトーク
中央図書館職員・学校図書館相談員
 - 1月 5日 ふるさとの新聞元旦号展～12日 中央図書館、
14日～18日 大沼図書館
 - 1月18日 図書館ボランティア懇談会 中央図書館
 - 1月21日 ブックリサイクル(雑誌)
各図書館ブックリサイクルコーナー
 - (今後の予定)
 - 2月 1日 仲町図書館休館～平成26年5月末日 予定
 - 2月 4日 仲町公民館 土曜「友・遊」おはなし会
仲町図書館職員 予定

- 2月 7日 多摩地域公立図書館大会① 第1分科会：館長協議会 予定
- 2月 8日 多摩地域公立図書館大会② 第2分科会：児童サービス予定
第3分科会：障がい者サービス 予定
- 2月16日 多摩地域公立図書館大会③ 第4分科会：地域資料 予定
- 2月17日 上水中ブックトーク 2年
児童担当・学校図書館相談員 予定
- 2月18日 ブックリサイクル（一般書・児童書）
各図書館ブックリサイクルコーナー 予定
民話講座「グリムの昔話と類話」①『「ヘンゼルとグレーテル」
が生まれるまで」 岡部由紀子氏 中央図書館 予定
- 2月25日 民話講座「グリムの昔話と類話」②「お菓子の家とパン焼き
窯」岡部由紀子氏 中央図書館 予定
- 3月 3日 民話講座「グリムの昔話と類話」③「魔女と山姥の昔話」
岡部由紀子氏 中央図書館 予定
仲町公民館 土曜「友・遊」おはなし会
仲町図書館職員 予定
- 3月14日 障がい者サービス交流会 中央図書館 予定

・平成23年度月別貸出状況について（資料No.2）

平成23年4月から12月末で1,181,437点の資料貸出を行っている。昨年
同期が1,229,011点であったため、約4万7千点ほど減少している。
新規登録者数、貸出者数も同様に減少している。多摩六都各市の状況は、1
市が減少、その他は若干増加していた。

・広域利用市別貸出状況について（資料No.3）

広域利用は9割が市内の方で、割合としては変わらないが、やはり減少し
ている。

② 12月市議会定例会について

図書館に関する一般質問は2件あった。1件目は「読むことが困難な児童・生
徒のためにダイジー教科書の普及と窓口の設置を」という質問の中で、ダイジー
図書の図書館での所蔵、ダイジー図書の評価についての質問があった。これに対
して、24時間テレビチャリティー委員会から寄贈されたものが、26点と今年
度購入する約20点がある。評価としては、ダイジー図書はデジタル録音された
音声による本であり、目次から読みたいページに飛ぶことや1枚のCDに長時間
の収録が可能であること、さらにマルチメディアダイジー図書であれば、音声に
画像と文字を同時に再生することもできる、という特徴があり、印刷物を読むこ
とに障害のある方々の読書手段として有効なものと答弁をした。

2件目は「さらに生きた学校図書館をつくるために」という質問中で、図書館協力員の全校配置により読書環境がどう進んだのかと、協力員の配置、待遇、スキルアップの現状とフルタイム常設型勤務についての2点の質問があった。これについては、配置により、中学校では、学校図書館の開室日が増え、蔵書や部屋が利用しやすく整備されたこと。小学校では、これに加え、授業に関連する資料の取りそろえ、読み聞かせ、ブックトークなどが行われたことから学校図書館の利用が増加している。また、協力員は、週3日、1日5.5時間、年間105日の活動となっており、謝礼は1日4,620円である。スキルアップとして、年6回程度研修を行っている。今後も、学校において、現在の支援体制を十分活用しながら充実を図っていくと、答弁している。

③ ふるさとの新聞元旦号展について

中央図書館で1月5日～12日、大沼図書館で1月14日～18日に開催した。54社に依頼し、50社から寄贈があった。アンケートでは毎年読みに来ている、という声が多くあり、恒例行事として定着していると感じている。なお、朝日新聞の1月8日号、読売新聞の1月10号で紹介記事が掲載されている。

④ 図書館情報総合管理システムの更新について

平成24年9月で5年の契約が終了し、新たな業者選定は公募型のプロポーザル方式で行う予定。プロポーザル方式を採用する理由は、図書館サービスをよりレベルアップするために、現状の基本業務の充実に加え、新たに高度かつ便利なシステムを求め、価格面だけでなく、各社の特色や新機能の提案を見て、新たな利用者サービスに繋げると共に、職員の意見や要望を出来るだけ反映したシステムを選定したいという考えがある。業者からの提案や経費に係る見積書などを総合的に評価し決定する。4月末日には契約を締結する予定で、新システムの稼働は10月からになる。それまでは現システムを使いながら、新システム導入の作業を進めて行く。

⑤ 小平市図書館条例の一部改正について（資料No.4）

平成23年8月30日に「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」が公布されたことにより、図書館法の一部改正が行われた。改正の内容は、現行の図書館法に定める「図書館協議会委員の任命」の基準を削除し、これを文部科学省令で定める基準を参酌して条例で新たに定めることである。平成23年12月1日に、文部科学省令が公布され、基準として、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命すると定められた。これを受けて、小平市立図書館条例第9条を一部改正し任命基準を追加することとした。改正され

た条例の施行は平成24年4月1日となる。現在、委員の任命は図書館法の規定に基づき任命されており、この基準で運営され充分機能している事から、図書館法と同一である文部科学省令の基準をもって条例に定めるよう手続きを進めている。今後、3月定例会に議案として提出する予定である。

<報告事項についての質疑・応答>

委員：小平市図書館条例の一部改正について、文部科学省令と小平市立図書館条例の基準は基本的には同じと思うが、最後の教育委員会が任命するとの理由は。

事務局：図書館法により以前から教育委員会が任命している。委員の方については、条例に定められた協議会委員ということで、教育委員会から任命させていただいている。

委員：おたのしみ会の参加人数を教えてください。また意見として、貸出数や利用者数の減について、理由は分からないとの事だが、今後、検討して行く必要があると思う。

事務局：おたのしみ会の参加人数は資料No.1に記載している。利用の減については、図書館としても模索している。1月からリクエスト数を拡大したことで前年同期より1.5倍にリクエストが増えている。このことによって貸出数が増えると思われるが、それで良いとは考えていない。

委員：ふるさとの新聞元旦号展、楽しく読んでいる。しかし、以前に比べて新聞の数が少なくなっているように思う。岡山県では、三陽新聞と岡山日日新聞の2紙あるが、今回は山陽新聞1紙のみであった。また、朝日新聞と読売新聞に記事が掲載されたが、元旦号を送ってくれた新聞社には、紹介記事を送っているのか。

事務局：54社に依頼し、50社から寄贈があった。元旦号展の開催を新聞で紹介されたことは、礼状と共に送っている。次回、もう少し増やせるか検討する。

委員：寄贈を受けてのことなので難しいが、楽しみにしている市民も多いので少しでも増やせるようお願いしたい。

委員：図書館業務等の中で図書館システムは重要だが、更新の決定を図書館と関連部課からの審査委員会での評価とするようだが、具体的な構成メンバーと人数は。また、審査項目の基準の中でデータの移行についてどのように考えているか。

事務局：審査委員は、委員長の教育部長他、情報システム課、政策課、指導課、そして図書館職員の6名を予定している。データ以降については、一番重要と考えている。新しい業者が変わった場合は確実に移行できるように仕様

の中にしっかり明記していく。

委員：公募型のプロポーザル方式をした時、同じような業者になるのか、それとも、いろいろな評価基準で審査して新しい業者になるのか。

事務局：現システム以外に、各業者がどのようなシステムを開発しているか、数者から実際にデモンストレーションをしてもらったが、どの業者でも図書館サービス上問題はないという印象を受けた。ただ、その中でも、図書館が必要としている機能を細かく仕様などに明記していく。

会長：審査委員会のメンバーに図書館職員が少ない。決定が多数決になった時、市側の委員に図書館の意見をどこまで取り入れてもらえるか。図書館の現場の意見を十分分かってもらうためにも、図書館員の声を直接審査委員に聴いてもらうようしていただきたい。

事務局：プレゼンテーションでの評価の前に審査委員会を開く。そこで、審査基準や実施基準など検討していただくが、その前段として図書館システムのあり方や何が必要かなど資料を作成し、しっかりと委員に理解してもらえよう説明する。

委員：審査は難しい。いろいろな人が、いろいろなことを言うとまとまらない。実務をしている人が入って、その意見を取り入れてくれれば良いが、そうでない権力をもっている人がたくさんいると逆効果になる。審査委員の人选を審査しないと審査会はずまくいかない。

事務局：メンバー構成は大きな問題だと考えている。今回のメンバーは図書館の運営について理解している。図書館のサービスが低下しないようなシステムとして選定していく。審査委員にはシステムをよく理解している図書館職員も入っている。

委員：雑誌のブックリサイクルは、古い雑誌が多い。保存期限の基準を教えてください。

事務局：雑誌の保存期限はその雑誌によって違いはあるが、2年保存が多い。週刊誌は1年だが、5年・10年の保存期限の雑誌もある。保存期限が切れた雑誌をブックリサイクルとして提供している。

委員：ふるさとの新聞元旦号展の件だが寄贈依頼というのは難しい。今は図書館という名称を使わない所もある。依頼しても図書館と思われず資料を送ってもらえないこともある。

事務局：小平市中央図書館長の名で依頼を出している。

委員：今回の報告事項ではないが、前回の「第2次小平市子ども読書活動推進計画の進捗状況」について、子ども文庫連絡協議会の感想を伝えたい。計画が出て1年で進捗状況が出されたことは良かった。また、施策項目に沿ってまとめてあり分かりやすいが、次年度についての課題と取り組みがもう

少し盛り込まれているとより良いのではないか。内容について、ティーンズコーナーは、中央では年々貸出等が増加しているが、地区館についてはアピール度が足りない。啓発資料などを作るとあるが、どのような資料が出来るのか期待している。新仲町図書館の学校図書館との連携推進館として連携を充実させる方策を検討するとあるが、具体的には決まっていないうら、学校図書館協力員、学校ボランティア、子どもの読書に関心のある一般の人を交えた意見の出せる場を設けて欲しい。

事務局：貴重な意見であり、今後の課題として検討していく。

委員：子ども読書活動推進計画とは直接関係ないが、平成24年4月から小・中学校連携教育の中で、中学校のブロック毎に学習面・生活面・進路などのテーマを決めた取り組みの一つとして、読書活動を進めて行く。「読書マラソン」という取り組みで、中学校では、3千ページを読むことを目標とする。図書館と連携・協力できると、さらに活動が充実する。

委員：政策、方針を決める際にパブリックコメントを行うことは良いが、その際には政策がほぼ決まっている。それ以前に意見を出せる場があると良い計画が作れる。

委員：ふるさとの新聞元旦号展は、中央図書館と大沼図書館のみの開催なのか。

事務局：今のところ、中央図書館と大沼図書館での開催となっている。

委員：楽しみにしている市民も多いので、市民サービスの面からも時期がずれてしまうが、1週間程度の単位で全館で開催してほしい。また、子どもの読書聞かせに向く本の冊子を作って、児童コーナーなどに置いてもらいたい。

事務局：現在、冊子は印刷中で、カウンターや目立つ所に置き配布する。

委員：議会の一般質問に学校図書館協力員の報告があったが、身分や待遇を良くしてほしいという質問はあったのか。

事務局：フルタイム常設型の勤務はできないのかとの質問に対して、学校司書教諭や図書担当教諭が中心となり、学校図書館協力員、学校図書館相談員、ボランティアなど多くの方々の協力により学校図書館は運営されていることから、今ある支援体制を十分活用しながら学校図書館の充実を図るため、フルタイム常設型は考えていないと答えている。

委員：今回、学校図書館協力員を6名募集しているが、任期は何年か。

事務局：1月20日号の市報で6名募集している。3年の区切と都合で辞める方の補充である。3年経験した方も希望があれば応募していただく。

委員：学校図書館協力員が入って学校図書館が良くなったとの報告を聞く。学校図書館協力員の身分や待遇が良くなり活用されればと思う。

委員：図書館システムの選定は重要なことなので、点数だけで決めないで欲しい。点数形式は、機能が豊富なシステムの方が上になり、基本的な貸出や検索

などが使いづらいシステムが選定されてしまう。機能の多さに惑わされな
いようにしてもらいたい。

(2) その他

東京都多摩地区公立図書館大会について

別紙パンフレットのとおり開催するので、参加を希望する方は当日会場に出向
くようお願いする。

<質疑・応答>

委 員：分科会すべて参加しなければいけないのか。

事務局：一つでも良い。

委 員：大沼公民館まつりの講演会で、「東日本大震災」を経験した講師の話の中
で、災害時の人命救助には担架が必要になるということが印象に残った。
大沼公民館（図書館）には無いので、備えておくと良いと思った。